

令和 2 年 6 月 18 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K03904

研究課題名（和文）移民起業家の特性と起業プロセスに関する探索的研究

研究課題名（英文）An explorative research on the characteristics and the start-up process of entrepreneurs as immigrants

研究代表者

東出 浩教（Higashide, Hironori）

早稲田大学・商学大学院（経営管理研究科）・教授

研究者番号：50308243

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、移民起業家を質的研究の対象とし、サンプルは、主に韓国、フランス、中国、インド、シンガポールにおいて起業をした日本人が対象となっている。また、理論的サンプリングの結果として、欧州での女性起業家および国内の長寿ファミリービジネス経営者が示す起業家精神とエフェクチュエーション・プロセスも分析対象となった。

分析結果としての修正後モデルにおいては、当初想定していなかった、エフェクチュエーションとコーゼーションを対置させた上でのブリコラージュの程度、そして、ライフストーリーに基づいた「内発的モチベーション」を、移民起業家の「創造力と知恵」の源泉として、モデルに組み込むことの価値が発見された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今回の質的研究から導かれた学術的意義は、当初のモデルには組み込まれていなかった「エフェクチュエーション」プロセスが、移民起業家の行動パターンに観察されることであり、コーゼーションとの対置により起業活動を評価する重要性が浮き彫りになったことである。また、ライフストーリーに基づいた「内発的モチベーション」を組み込むことにより、モデルの説明力が強化される、という発見の意義も大きい。

加え、これまで、ボーン・グローバル起業家の思考・行動パターン分析などにも援用されてきたE0のコンセプトは、移民起業家の起業意図・起業パフォーマンスとの因果を探索するには限界があるという発見も重要な研究からの示唆である。

研究成果の概要（英文）：This research focuses on entrepreneurs as immigrants and includes the samples mainly from Japanese who started-up in Korea, France, Mainland China, India, Singapore. Theoretical sampling from the interim analyses suggested to included the owner-managers of long-lasting family businesses in Japan in terms of their entrepreneurship and effectuation process.

In the resultant modified model, the extent of 'bricolage' on the continuum between effectuation and causation is built-in. Furthermore, 'intrinsic motivation' based on the life-histories of entrepreneurs as immigrants is also included in the model as the source for their creativity in implementing the project in foreign countries. Including these concepts in the model appears to be of critical importance so as to enhance the explanatory power of the modified model

研究分野：経営学

キーワード：移民起業家 アンタレプレナーシップ エフェクチュエーション ライフストーリー分析 ブリコラージュ 内発的モチベーション

## 1. 研究開始当初の背景

世界的な起業家調査である GEM(Global Entrepreneurship Monitor)は 2013 年初に発表したレポートで「移民・外国人起業家は、移住先と母国両国の経済をブーストする」存在であると示し、移民起業家への関心を喚起した。一方で、同調査は、定量調査として移民起業家への注目を促したが、その弱点ゆえに、移民起業家の起業「プロセス」の解明は不十分であった。

本研究では、担当者らの主な研究領域が「ビジネスにおける創造と起業プロセス」である点を活かし、「在外経験」が起業家精神や起業プロセスにどのように影響するかを定性研究によって探索、移民起業家の起業成功プロセスと支援策の提示、在外経験と起業家精神・起業プロセスの関係解明までを目指した。

経営学分野において「移民起業家」は領域として新しい。

経営学以外では文化人類学や都市社会学の領域では多数のフィールドワークによる移民企業家研究の再評価や、社会的現象研究としてシリコンバレーなど特定地域でのベンチャー企業と海外からの起業家の集積、社会学研究ではエスニック・ネットワークの形成が移民起業家へ与える影響などの研究もある。しかし、これらは移民起業家の成功プロセスを解明するものではなく、今後日本のみならず諸国が必ず直面するであろう移民問題に対して、移民起業家による経済発展という観点からの示唆を提示するものではなかった。故に、研究担当者らはこれをリサーチの空白域であると捉えた。

## 2. 研究の目的

本研究は移民起業家を研究対象とし、「在外経験」が起業家精神や起業プロセスにどのように影響するかを定性研究によって探索、移民起業家の起業成功プロセスと支援策の提示、在外経験と起業家精神・起業プロセスの関係解明までを目指す事が目的であった。

申請時においては、移民起業家を、在日外国人、在外日本人、在外経験を生かして日本に帰国して起業した日本人起業家(厳密には移民起業家ではないが「在外経験」の影響を確認する意味で研究範囲とする)の3種類であると定義した上で、(1)移民起業家は母国・居住国の双方にどのようなプロセスで貢献するのか(2)在外経験は起業家と起業プロセスにどのような影響を及ぼすのか、いう2つのリサーチ・クエスチョンを設定した。

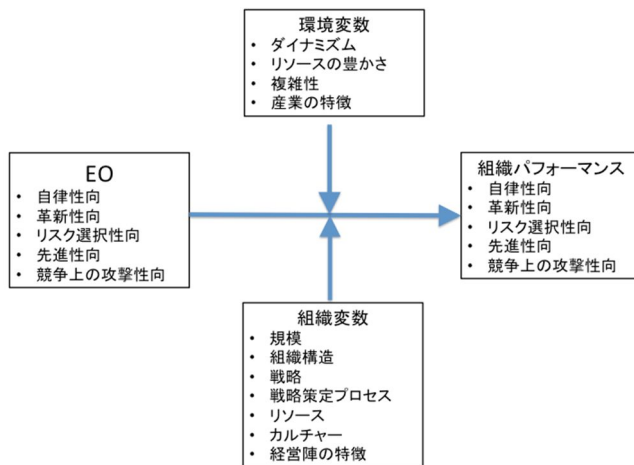
研究成果においては、理論的サンプリングの結果として、主に東アジアおよび東南アジア諸国で起業をした日本人起業家の起業プロセスに焦点を当てることとなると同時に、比較対象として、日本国内の長寿ファミリービジネス・オーナーも研究対象とし、質的データの収集・分析を行うこととなった。

## 3. 研究の方法

本研究はインタビューを用いた定性調査を主とするが、既に多くの定量調査で信頼性が担保されている Lumpkin & Dess(1996)による「E0 と組織パフォーマンスモデル」を用いて半構造化インタビューガイドを作成し、調査対象者への質問票調査をも行う点で定量調査を一部併用するリサーチ戦略を予定していた。

しかしながら、以下の研究成果において詳述するように、初期のデータ分析を踏まえた結果、E0 を今回の研究の主たるインストルメントとして採用する事が、必ずしも求める研究成果を得るために最適では無いという議論に至った。結果として、E0 をも利用した量的調査も含めた、いわゆる mixed method ではなく、よりグラウンデッド・セオリー(GTA)の手順に主に従った、データの収集・分析に基づき、最終的なモデルの導出と移民起業家の起業プロセスの解明を目指すこととした。ただし、初期の研究から、E0 を構成するサブ・ディメンションの中でも、相対的に重要度が高く因果への影響が観察された要素に関しては、最終的なモデルへと反映させることとなった。

とりわけ、質的データのコーディングにおいては GTA のプロセスを重視する一方、研究の効率的・効果的な進捗を図るため、文献研究を踏まえた、一定の理論的背景を踏まえた、研究のためのベースモデルを策定した上で、それを理論的サンプリングによる質的データとそこからの発見を踏まえながらモデルの修正を繰り返すというプロセスでの研究となった。起点としてのモデルは、以下となる。



リサーチ・クエスチョンを踏まえた上での、この当初モデルにおいては、次の4つの仮説が設定されていた。

- H1 GEMによる「移民・外国人起業家が、その国・地域と母国の経済をブーストする」という指摘は、日本と関連する移民起業家において、どのようなプロセスで行われているか
- H2 移民起業家の成功にはどのような変数（起業家特性、環境、組織）が作用しているのか
- H3 在外経験は起業家の特性、起業プロセスにどのような影響を及ぼしているのか
- H4 移民起業家の支援は可能か、可能であればどのような支援をすべきか

#### 4. 研究成果

本研究では、移民起業家を質的研究の対象とし、サンプルは、主に韓国、フランス、中国、インド、シンガポールなどにおいて起業をした日本人が対象となっている。また、分析結果からの理論的サンプリングの結果として、欧州諸国で起業をした日本人女性起業家、そして国内の長寿ファミリービジネス・オーナーが示す起業家精神とエフェクチュエーション・プロセスも分析対象となった。

これまでの各国のデータ分析結果からの示唆には、以下のようなものが含まれる。

- (1)韓国における日本人起業家からのデータ及びフランスにおける調査結果から、E0のいくつかの下位概念は、必ずしもこれまで経験的研究に沿った機序を示さない。具体的には、E0の示す Risk taking, Innovativeness, Competitive advantage の下位概念が観察されない一方で、Autonomy, Proactive が高い水準で観察された。移民をした上で起業をしたというサンプルの特性が象徴された結果と考えられる。
- (2)マレーシア発ボーン・グローバル企業2社のケーススタディにおいては、最新のボーン・グローバル企業の成功要因だけではケースを説明しきることが難しく、媒介変数として effectuation と causation を、現有経営資源の状況に照らし合わせながら起業家的に組み合わせていくことの重要性が浮き彫りになってきた。
- (3)フランス(特にブルゴーニュ地方)においてワイン醸造家として起業した日本人達への質的調査においても同様に、E0の下位概念としての Autonomy, Proactive においては、一定レベルの観察結果が得られた一方で、起業の成功要因という視点から同データを分析した時には、むしろ日本の長寿ファミリービジネスの「生き残り戦略」と共通した因子が多数観察されることとなり、E0を説明変数とすることが必ずしも最適ではない可能性が示唆された。また、フランスからのデータは、起業家の持つモチベーションに関して、典型的な起業家研究には現れてこないタイプの内発的モチベーションの重要性と、同モチベーション醸成のための「振り返る」習慣の価値が浮き彫りとなってきた。
- (4)中国国内の日本人起業家についての実態と活動調査から、上海および大連に限った調査の結果、大連では1990年以降の日本企業進出ラッシュに伴い、日本人による起業が目立つようになったが、大半が失敗し撤退したとのデータ、証言を得た。また、他都市に比べ大連が際立って失敗例が多い。一方、上海でも同時期以降に日本人による起業が目立つようになり、大連に比して上海では成功例が複数あることがわかった。
- (5)欧州での調査によって在外日本人女性の起業スタイルが、エフェクチュエーション理論が示唆する「市場調査や戦略立案はせず、まず今自分ができることから始める」という、エフェクチュエーション理論が示唆する典型的な思考・行動パターンの一つに合致する部分が多いという発見があった。
- (6)日本国内の長寿ファミリービジネスにおける起業家精神には、素材を活かした「質」をビジョンに取り入れたエフェクチュエーション・プロセスが観察されること、また高い「質」と部分

的に残された職人的手作業との関連が差別化と顧客の共感獲得へとつながっていることなどが質的データにより導き出された。

(7)インド及びシンガポールを拠点とした日本人ボーン・グローバル起業家への質的調査からは、そして相対的に年齢層の若い在外日本人ボーン・グローバル起業家の思考・行動パターンは、学歴をはじめとしたシグナリングが高いほどに、機会発見ではなくエフェクチュエーションに導かれた機会創造に近づいていくことが発見された。

これらの分析結果に横断的な検討を加えた結果、本研究課題の最終成果として提示するモデルでは、蓄積した経験的データが強く示唆するように、移民起業家のエフェクチュエーション・プロセスとコーゼイション・プロセスを対置させながらも、どちらの特徴をより強く示すのか、つまり起業家の「プリコラージュ」の程度は、発見された様々な変数(幼少時の体験、シグナリングの程度、人口学的特徴、素材への執着、起業コンテクスト、等)に応じて可変することが中心的な命題となってくる。

加えて、内発的モチベーションに裏打ちされたプリコラージュのプロセスが、起業マイルストンの段階的達成と振り返りにより、起業の生き残りや成長のみならず、移民起業家の内発的発展とモラル醸成にどのような機序で貢献しているのかに関してもモデル化をする可能性が示唆されている。

これらの変数を研究そして実務に取り込んでいくためには、移民起業家のこれまでの歴史そのものを観察対象とする必要がある。従い、インタビューそして分析においても、可能な範囲でライフヒストリー分析の手法を取り入れることにより、移民起業家の「内発的モチベーション」を、移民起業家の「創造力と知恵」の源泉として研究モデルに組み込み、その説明力を強化する事が必要である点が明らかとなった。

最後に、これまで組織の起業マインドセットを測定するインストルメントとして開発され、ボーン・グローバル起業家をはじめとした、起業家一般の思考・行動パターン分析などにも数多く援用されてきたE0のコンセプトは、移民起業家の起業意図そして結果としての起業パフォーマンスとの因果を探索するには、一定の限界があるという発見も、今回の研究からの重要な示唆である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 姜理恵、東出浩教	4. 巻 21
2. 論文標題 創造産業従事者の業績を高めるマネジメント 創造性、職場環境、トランスの観点から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本創造学会論文誌	6. 最初と最後の頁 76-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 R.KANG and H.HIGASHIDE	4. 巻 1
2. 論文標題 Exploring Effective Management Style for Creative Workers with Effect Size Analysis	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proc. of The13th International Conference on Knowledge, Information and Creativity Support Systems	6. 最初と最後の頁 122-127
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 姜理恵、東出浩教	4. 巻 21
2. 論文標題 創造産業従事者の業績を高めるマネジメント	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本創造学会論文誌	6. 最初と最後の頁 76～97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） <a href="https://doi.org/10.24578/japancreativity.21.0_76">https://doi.org/10.24578/japancreativity.21.0_76</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件／うち国際学会 5件）

1. 発表者名 山口勝士、東出浩教
2. 発表標題 Transforming External Networks of Family Business by Next-generation of a Small Long-standing Traditional Japanese Craft Manufacturer
3. 学会等名 2nd STEP Global Academic Conference（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 R.KANG and H.HIGASHIDE
2. 発表標題 Exploring Effective Management Style for Creative Workers with Effect Size Analysis
3. 学会等名 The13th International Conference on Knowledge, Information and Creativity Support System (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 清水里紗 姜理恵
2. 発表標題 女性の起業家精神を育む 経営学教育の実践
3. 学会等名 人工知能学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 王敏達 姜理恵
2. 発表標題 移民と地域活性化
3. 学会等名 人工知能学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 東出浩教 他
2. 発表標題 Technology Interaction and Business Development between Taiwan and Japan
3. 学会等名 2017 IFERA Global Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 東出浩教 他
2. 発表標題 Preserving Long Lasting Family Businesses Through Centuries
3. 学会等名 3RD STEP GLOBAL SUMMIT 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 姜 理恵
2. 発表標題 在日韓商の起業家特性とE0
3. 学会等名 日本創造学会西日本大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 東出浩教
2. 発表標題 The cases of Japanese long-lasing family businesses
3. 学会等名 2019 STEP Global Report Release & STEP Asia Pacific Panel (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 山口勝士、東出浩教 他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Vital Wellspring Education PTE, Ltd., Singapore	5. 総ページ数 386
3. 書名 中小企業傳承與創新	

1. 著者名 早稲田大学校友会ベンチャー稲門会、東出 浩教	4. 発行年 2018年
2. 出版社 中央経済社	5. 総ページ数 290
3. 書名 ガゼル企業成長の法則	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	姜 理恵  (Kang Rie)  (90570052)	北陸先端科学技術大学院大学・先端科学技術研究科・准教授    (13302)	